ホームシアターサウンドシステム

TSS-10

取扱説明書

ヤマハホームシアターサウンドシステムTSS-10をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
本機の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書をご確認ください

保証書に販売店名、購入日などが記入されておりませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがあります。

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば⚠は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。
たとえば🛇は「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

● 異常なにおいや音がする。 ● 煙が出る。
● 内部に水や異物が混入した。
そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。

● 重いものを上に載せない。 ● ステープルで止めない。 ● 加工をしない。
● 熱器具には近づけない。 ● 無理な力を加えない。
芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

● 浴室･台所･海岸･水辺 ● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ
水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解･改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理･調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため、本機を設置する際には：

● 布やテーブルクロスをかけない。 ● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
● あおむけや横倒しには設置しない。
（少なくともアンプユニットの上20cm、左右各10cm、背面10cm以上離して設置してください。）
本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- サブウーファーの振動によりものが落下してけがの原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

必ず行う

スピーカーケーブルは必ず壁等に固定する。

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが転落・落下し、故障したり、けがの原因となります。

必ず行う

取付け後は必ず安全性を確認する。

また、定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。
取付け箇所、取付け方法の不備による事故等の責任は、一切負いかねますのでご了承ください。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

電源を入れる前や再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因となることがあります。

接触禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。
- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴力障害の原因となることがあります。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

必ず付属の専用ACアダプターを使用する。

付属の専用ACアダプター以外の使用は、火災や感電の原因となることがあります。

必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

フロント及びリアスピーカーを設置する際は、以下のことに注意する。

● 壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しないでください。
● 薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けないでください。

正しい取付け方法をしないと、スピーカーが落下して、けがの原因となることがあります。

必ず行う

センタースピーカーを設置する際には、付属の固定テープを使用して確実に固定する。

固定テープを貼る場所のほこりやよごれを取り除いてください。また、固定テープの粘着面に触れないでください。粘着力の低下により、スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。

禁止

センタースピーカーを設置する際には、スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。

スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。

禁止

本機に乗ったり、ぶら下がったり、寄りかかったりしない。

転倒したり破損したりして、けがの原因となることがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

必ず行う

開梱や持ち運びは必ず 2 人以上で行う。

重いので、けがの原因となることがあります。

特長

● **ホームシアターサウンド**
映画館で味うような、迫力と臨場感のある音場を体験できるホームシアターサウンドシステムです。

● **ドルビーデジタル、ドルビープロロジックIIおよびDTSデコーダーを搭載**
本システムはDOLBY SURROUND、DOLBY DIGITAL または DIGITAL dts SURROUND マークのついたソフトの音場を再現します。また、通常のステレオ音声をサラウンドで再現することもできます。

● **バーチャルサラウンド（ヘッドホーンを使用）（サイレントシアター）**
本システムでは、ヘッドホーンを使用の場合でも仮想サラウンドの音場を楽しむことができます。

本機は家庭内で使用することを目的としてつくられています。
カーオーディオ用としては使用できません。

■ 本書の記載について

● ヒントは操作上のアドバイスなど補足的な説明です。
● 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
● 本取扱説明書は製品開発に先がけ印刷されております。その後、操作性の向上、その他の理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。
● 説明の便宜上、文中のイラストや名称等が実際の製品や梱包箱等と異なる場合があります。

目次

準備

準備する

操作

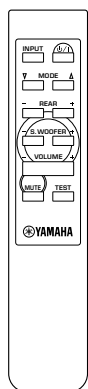
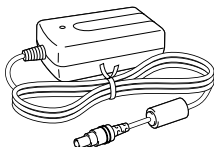
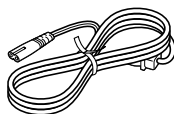
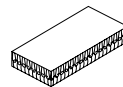
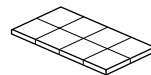
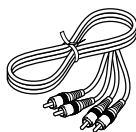
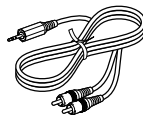
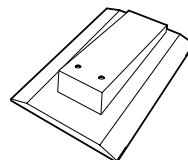
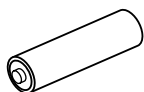
操作する

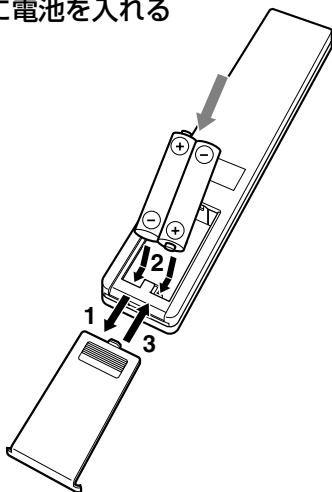
その他の情報

その他の情報

DOLBY DIGITAL PRO LOGIC II

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

リモコンを準備する

リモコンに電池を入れる

1 リモコンの裏ぶたの ⬇OPEN マークを押しながら、電池カバーを取りはずす。

2 付属の単4乾電池（2本）を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス（＋）とマイナス（－）の向きを間違えないように、正しく入れる。

電池は必ず図に示した方向から入れてください。

3 裏ぶたを閉じる。

電池ケース内の表示に従って、プラス(＋)とマイナス(－)の向きを間違えないように正しく入れてから、裏ぶたを閉める。

乾電池が消耗したときは、交換してください

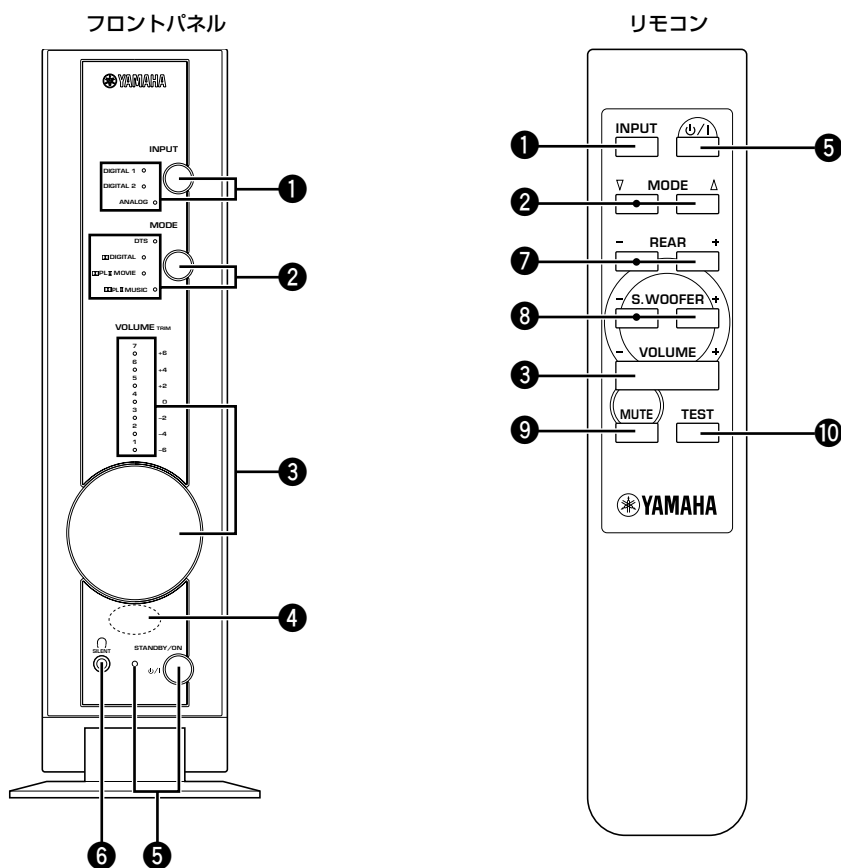
乾電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなったりします。このような場合は、すべて新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。

各部の名称とはたらき

フロントパネル

リモコン

❶ インプットセレクターキー／インジケーター(INPUT)

キーを押すごとに、インプットモードが切り替わります。(DIGITAL1、DIGITAL2、ANALOG)現在選択されているモードのインジケーターが点灯します。

DIGITAL1：
アンプユニット背面のデジタル入力光1端子に入力された信号を再生するときに選択します。

DIGITAL2：
アンプユニット背面のデジタル入力光2端子に入力された信号を再生するときに選択します。

ANALOG：
アンプユニット背面のアナログ入力端子に入力された信号を再生するときに選択します。

❷ サラウンドモードセレクターキー／インジケーター(MODE、∇/∆)

キーを押すごとに、サラウンドモードが切り替わります。(DTS、DD DIGITAL、DD PL II MOVIE、DD PL II MUSIC、オフ)現在選択されているモードのインジケーターが点灯します。

＊サラウンドモードの詳細については、13ページの「サラウンドモードの特長」をご覧ください。

❸ ボリューム/インジケーター（VOLUME、＋/－）

本システム全体の音量を調節します。
現在のボリュームレベルがインジケーターの点灯で表示されます。

アンプユニット:
右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

リモコンボリューム(＋/－):
＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。

❹ リモコン受光窓

付属リモコンからの信号を受信します。

❺ STANDBY/ON(スタンバイ/オン)(⏻/I)/インジケーター

押すごとに、アンプユニットをスタンバイ状態から電源オンに(またはその逆に)切替えます。電源がオンのとき、インジケーターが点灯します。

> **スタンバイモード**
> スタンバイモード中は、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

❻ 🎧SILENT(サイレント)

ヘッドホンを接続するミニ端子です。この端子にヘッドホンを接続しているときは、スピーカーから音は出ません。

❼ REAR(リア)＋/－

リアスピーカーの音量を調節します。
＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。

❽ S.WOOFER(サブウーファー)＋/－

サブウーファーの音量を調節します。
＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。

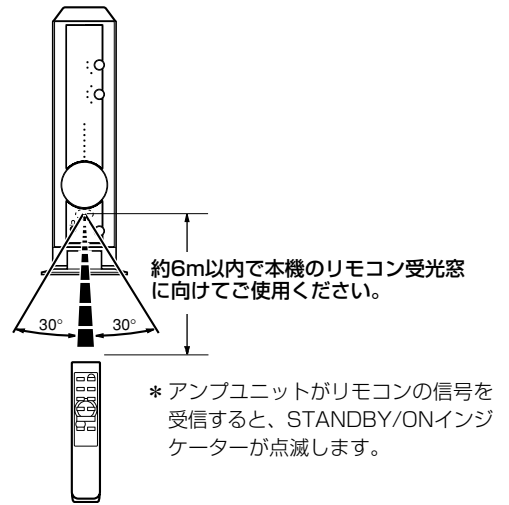
❾ MUTE(ミュート)

一時的に音を消したいときに押します。もう一度キーを押すとこの機能が解除され、もとの音量に戻ります。

❿ TEST(テスト)

スピーカーからテストトーンを鳴らすときに押します。テストトーンは、各スピーカー間の音量バランスを調整するときに役立ちます。調節はリモコンのVOLUME＋/－キーでおこなってください。

■ リモコンの使用について

＊アンプユニットがリモコンの信号を受信すると、STANDBY/ONインジケーターが点滅します。

リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
  －ストーブのそばや風呂場など、温度･湿度の高いところ。
  －ほこりの多いところ。
  －極端に寒いところ。

設置について

システム構成

本システムは以下の製品で構成されています。

- アンプユニット X 1台
- フロントおよびセンタースピーカー（3mコード付き）X 3台
- リアスピーカー（10mコード付き）X 2台
- サブウーファー X 1台

各スピーカーの役割

サラウンド再生の場合、フロントスピーカー(右、左)はメインチャンネルからのメイン音声信号を再生します。また、リアスピーカー(右、左)はサラウンドチャンネルからの効果音等を再生し、センタースピーカーはセンターチャンネルからの音声信号(人物の会話など)を再生します。
サブウーファーは低音補強用として、フロント、サラウンド、センターの各チャンネルからの低域成分のみを集め再生します。また、ドルビーデジタルやDTS再生の場合、サブウーファー(LFE)チャンネルからの特殊低域効果音なども再生します。

各スピーカーの配置

スピーカーの配置は、システム全体の音質に大きく影響するため重要です。下記説明にしたがい、各スピーカーを適切な位置に設置してください。

＊フロント／センター／リアスピーカーは壁に掛けることもできます。（次ページ参照）

フロントスピーカー

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。モニターを設置している場合は、モニターの両脇に設置してください。

リアスピーカー

リスニングポジションよりも後方、または部屋の両サイドに設置します。お部屋の状況に合わせて、床や棚に置いたり、壁に掛けることもできます。

センタースピーカー

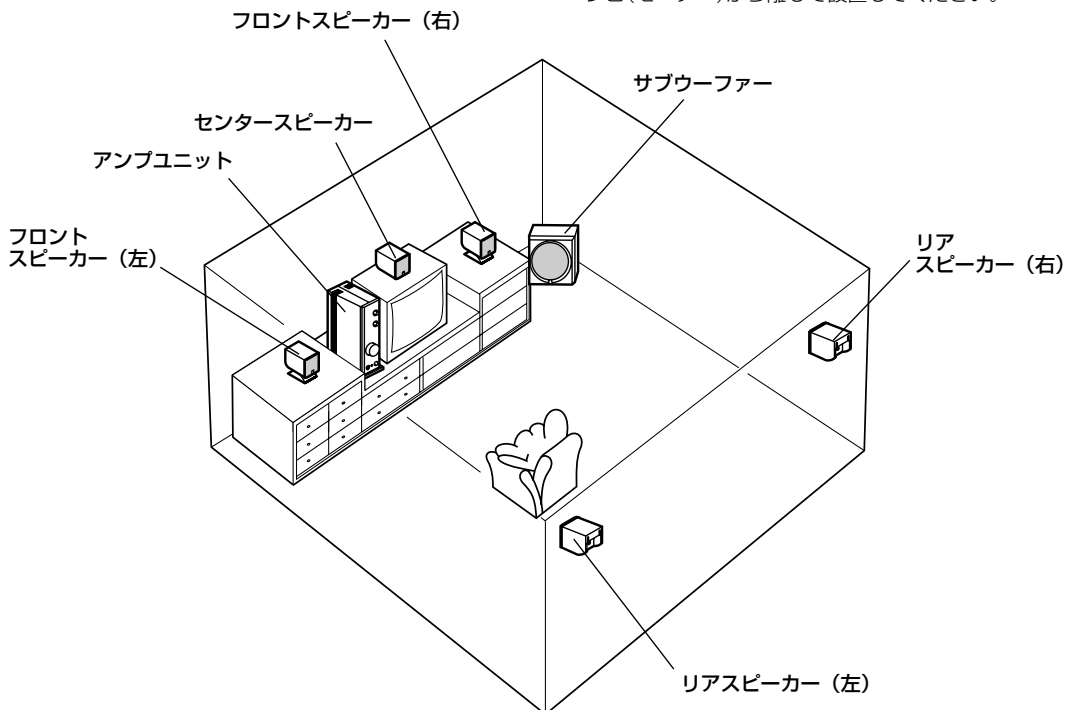
左右フロントスピーカーの間(各フロントスピーカーから等間隔の位置)に設置します。

＊センタースピーカーはモニターの上に置くこともできます。（次ページ参照）

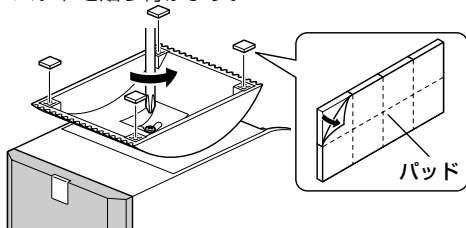
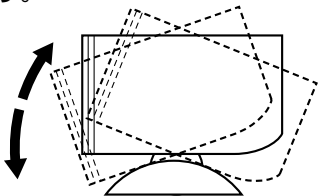
サブウーファー

床の上に設置します。低音の聴こえかたは、サブウーファーを置く位置や聴く位置によって異なりますので、設置場所を変えてお試しください。

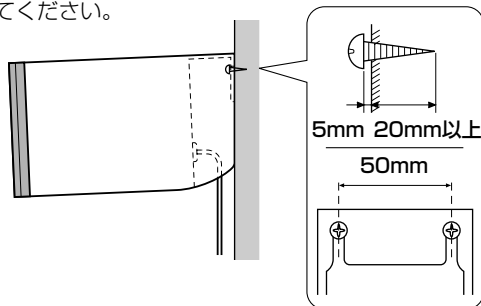
ご注意

- テレビ(モニター)の映像が乱れるときには、スピーカーをテレビ(モニター)から離して設置してください。

■ フロント／センター／リアスピーカーの角度を調整するには

1 **スピーカースタンドを取り付けているネジを、スタンドが動く程度にゆるめます。**

＊安定性向上のため、スピーカー底面の四隅に付属のパッドを貼り付けます。

2 **スピーカーを適切な角度に調整し、ネジを締め直します。**

■ フロント／センター／リアスピーカーを壁に掛けるには

フロント／センター／リアスピーカーを取り付ける壁側に2本の木ネジ（市販品：直径4 mm程度）を50 mm間隔にて取り付けます。スピーカー背面の細長い切り込み部を木ネジに引っ掛けます。

＊切り込み部が木ネジに確実に掛かっていることを確認してください。

ご注意

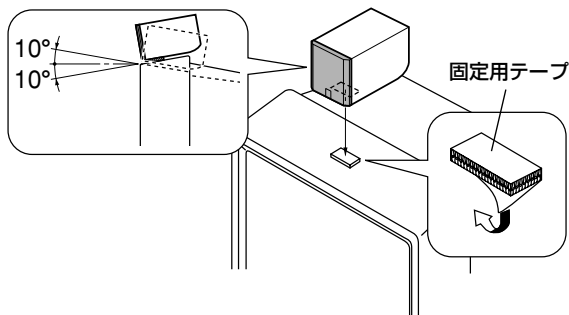
（重要なご注意です。必ずお読みください。）

- スピーカーの重量は１台約0.4 kgです。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニア板など、はがれやすい材質の壁には取り付けないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 釘などの抜けやすいものは使用しないでください。長時間の使用や振動で抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- スピーカーコードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは必ず固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。

  取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

■ センタースピーカーをモニターの上に設置するには

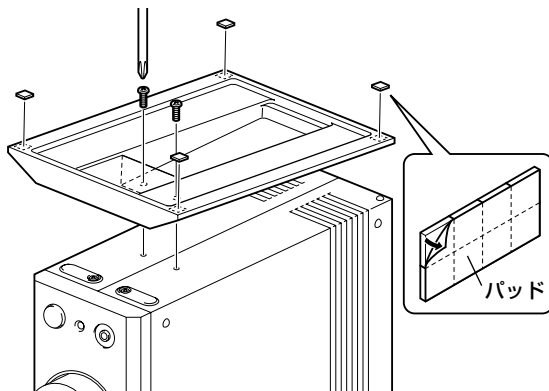
スピーカーからスタンドを取り外し、付属の固定用テープを図のようにセンタースピーカー底面とモニターの上面に貼り、確実に固定します。

＊モニターの上面が傾いている場合、もし傾きが水平面に対して10°以上ある場合は、モニターの上には設置しないでください。

ご注意

- スピーカーは防磁設計となっていますが、コンピューターのモニターやテレビの近くに設置すると画像が歪むことがあります。そのような場合は、離してご使用ください。
- テープをはがした後、接着面には触れないでください。接着強度が弱くなります。
- 固定テープを貼る部分はきれいに拭いておいてください。ほこりや油、水などが付着していると、テープの接着強度が弱くなり、スピーカーが落下する恐れがあります。

■ アンプユニットにスタンドを取り付ける

安定性向上のため、アンプユニットに付属のスタンドを取り付けることをおすすめします。

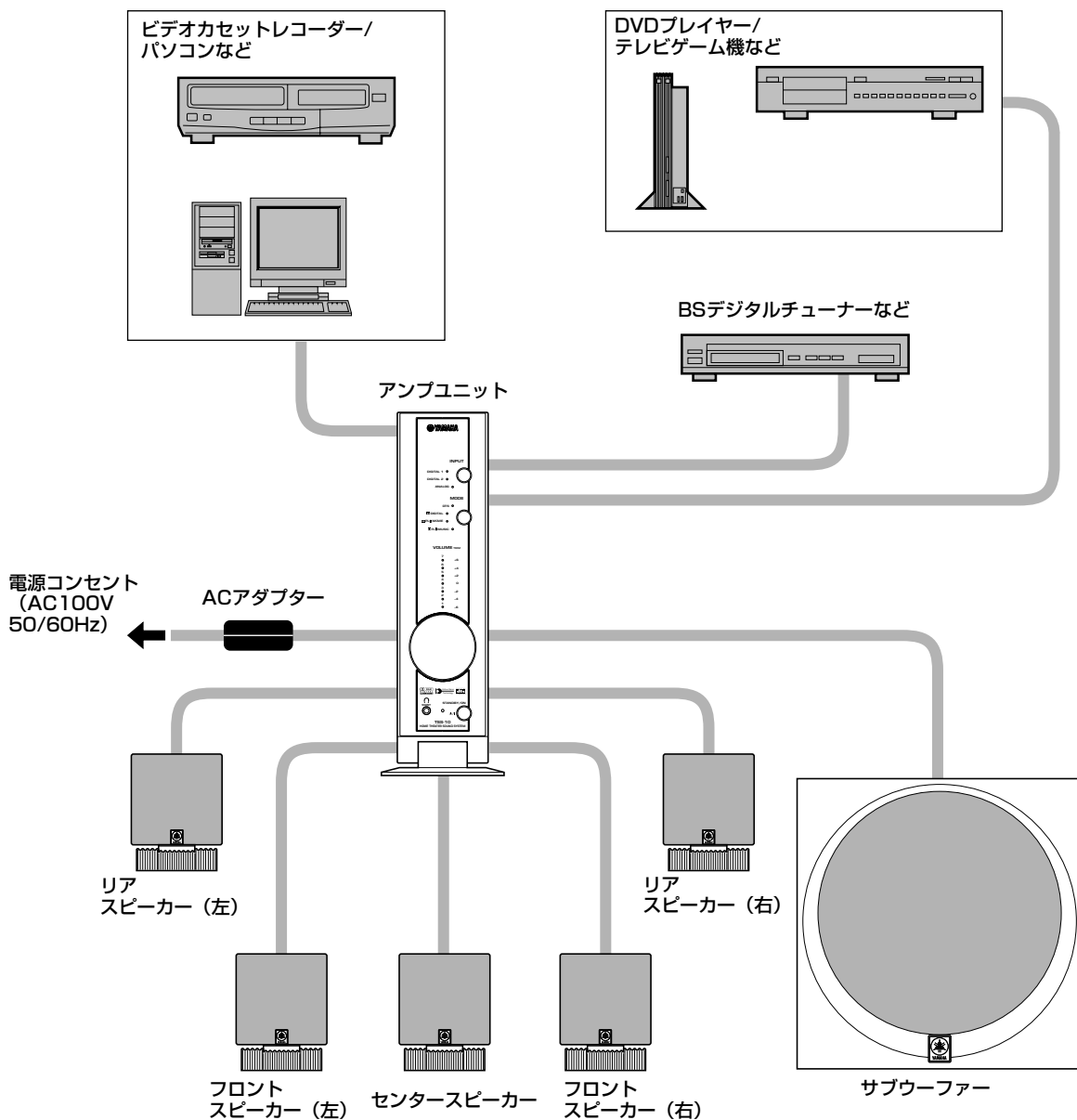
はじめにスタンド底面の四隅に付属のパッドを貼り付け、スタンドの前後方向を確認した後、付属のネジで取り付けます。

接続のしかた

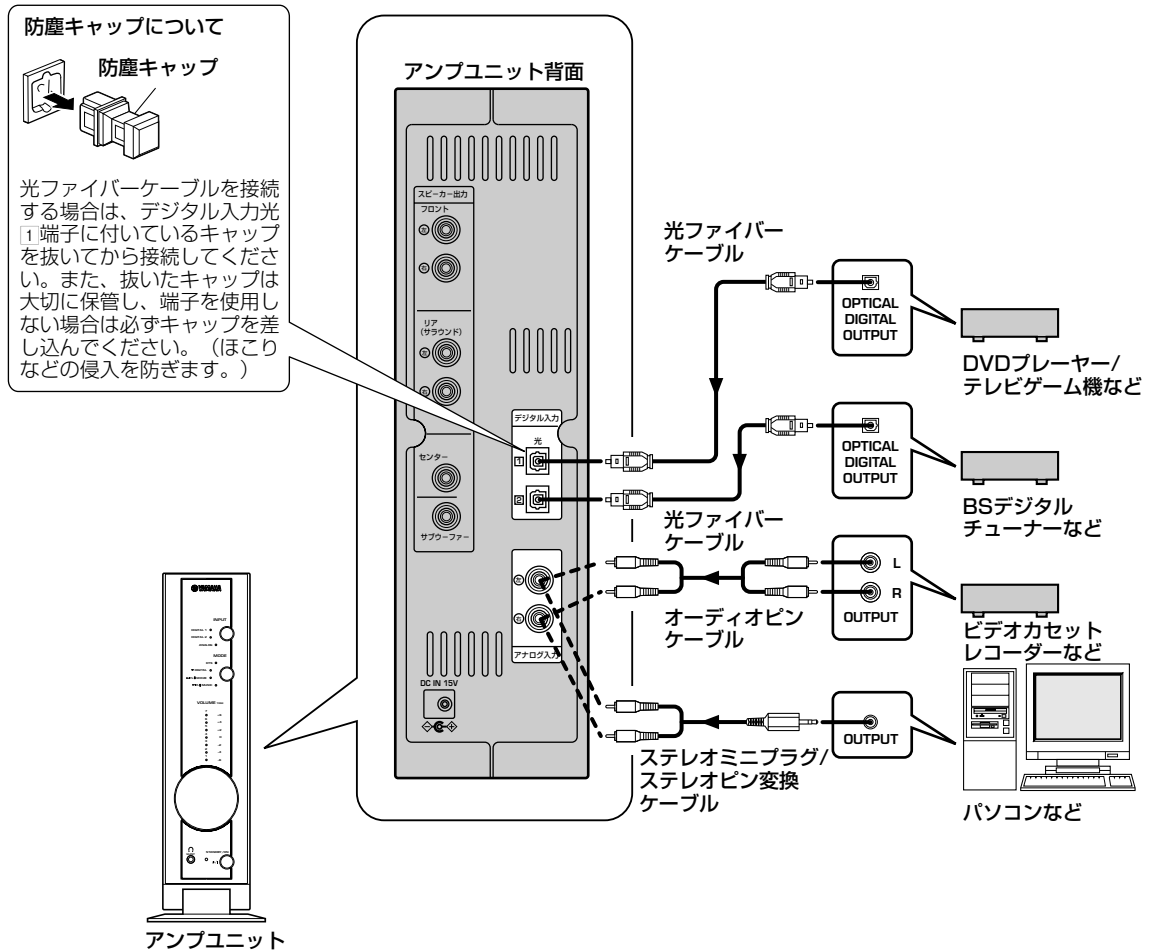
接続をおこなう前に、接続する全ての機器の電源コードをコンセントから外してください。また、付属のACアダプターは接続が完了した後でアンプユニットに接続してください。

正しい接続のために

- 音声信号の左端子(白)には接続コードの白のプラグを、右端子(赤)には赤のプラグを接続します。
- プラグは、しっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていないと音が出なかったり雑音の原因となります。
- 接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

ご注意

本システムは、テレビ(モニター)やビデオ機器のビデオ信号用入/出力端子とは接続できません。

外部機器とのつなぎかた

- 接続には、お持ちの機器にあった下記の接続ケーブル(付属または市販)をご用意ください。

- DVDプレーヤーなどの光デジタル出力端子とアンプユニット背面のデジタル入力光1端子を光ファイバーケーブルを使って接続します。同様に、BSデジタルチューナーなどの光デジタル出力端子とアンプユニット背面のデジタル入力光2端子を光ファイバーケーブルを使って接続します。この接続により、接続した機器からのデジタル音声をお楽しみいただけます。
- ビデオカセットレコーダーなど、デジタル出力端子がない機器を接続する場合は、オーディオピンケーブルを使って、アナログ音声出力端子とアンプユニット背面のアナログ入力端子を接続します。
- オーディオ出力用3.5mmステレオミニ端子のみを装備しているパソコンなどを接続する場合は、ステレオミニプラグ/ステレオピン変換ケーブルを使用して、アンプユニット背面のアナログ入力端子に接続してください。

ご注意

- アンプユニット背面にはビデオ入力端子がありません。アンプユニット背面に接続されたDVDプレーヤーなどを再生するには、DVDプレーヤーのビデオ出力をテレビ(モニター)に接続してください。

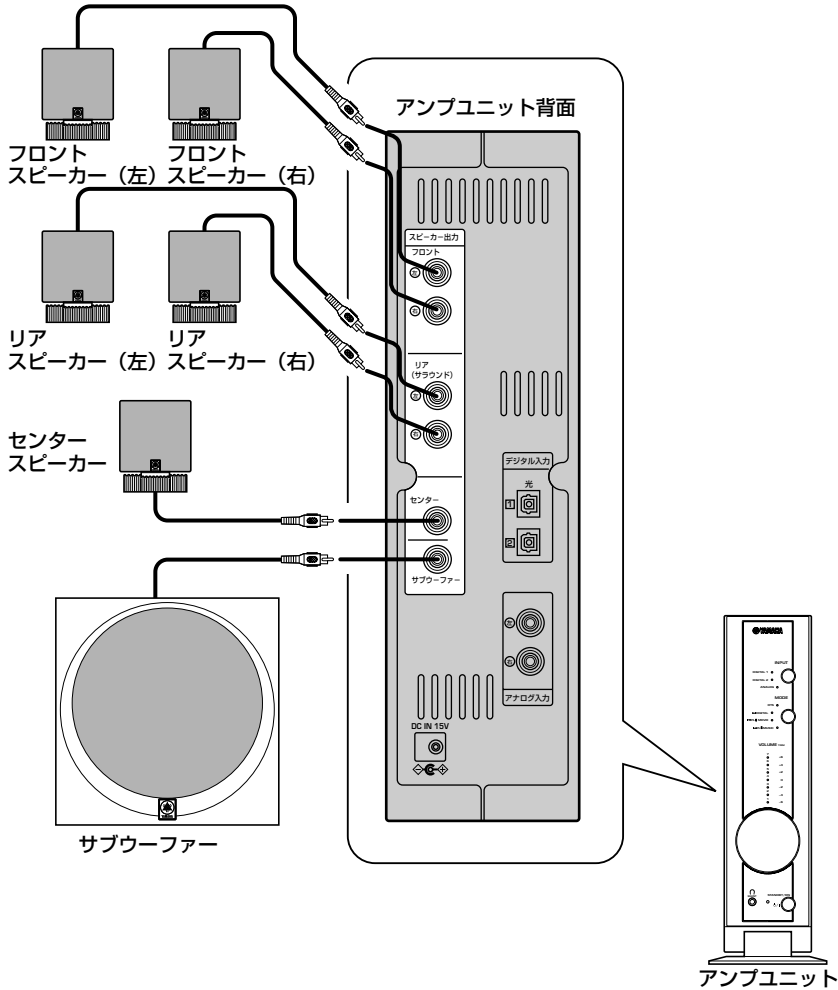
ヒント

- 本システムでは録音、録画はできません。

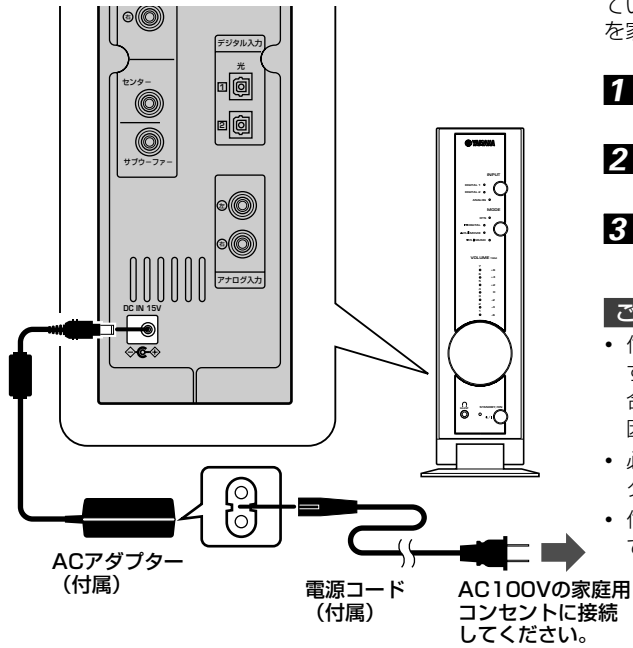
スピーカーのつなぎかた

アンプユニット背面にスピーカーを接続します。
3mコード付きのフロント及びセンタースピーカー(3台)を、それぞれフロント右、左およびセンター端子に、10mコード付きのリアスピーカー(2台)を、それぞれサラウンド右、左端子に、そしてサブウーファーをサブウーファー端子に接続します。

ご注意

- アンプユニット背面のスピーカー端子に同梱のスピーカー以外は接続しないでください。

- アンプユニット背面のスピーカー出力端子は、付属のフロント／センター／リアスピーカーおよびサブウーファーの接続専用に設計されています。これらの端子には、絶対に他のAVアンプやパワーアンプなどを接続しないでください。誤動作を起こすだけでなく、アンプユニットの故障や火災等の原因にもなります。
- スピーカーコードは手や足にひっかけないよう、固定してください。

電源コードのつなぎかた

アンプユニット背面

もう一度アンプユニットに接続した機器が確実に接続されているか確認してください。最後に、電源コードのプラグを家庭用コンセント(100V50/60Hz)に差し込みます。

1 付属の専用ACアダプターをアンプユニット背面に接続する。

2 付属の専用ACアダプターに付属の電源コードパワーケーブルを接続する。

3 電源コードのプラグを家庭用コンセント（100V50/60Hz）に差し込む。

ご注意

- 付属の専用ACアダプターを机などの上に置く場合は、落下することのないよう必ず固定してください。もし落下した場合、アダプターや他の機器の破損だけでなく、けがをする原因にもなります。
- 必ず付属の専用ACアダプターをご使用ください。他のACアダプターの使用は本機の故障や火災の原因となります。
- 付属の専用ACアダプターは、本機以外の機器に使用しないでください。

スピーカーの音量レベルを調節する

テストトーンを出力して、視聴位置で聞こえる各スピーカーからの音の大きさが同じになるように調節します。この調節はドルビーデジタル、ドルビープロロジックIIやDTSを最良の環境で使用するために重要です。

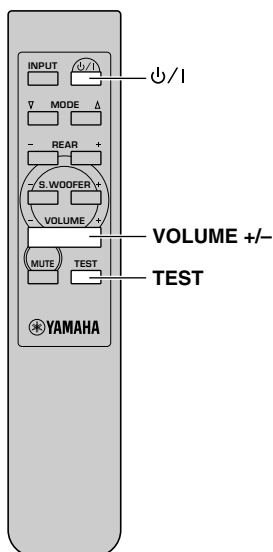
ご注意

- ヘッドホンをつないでいると、音声出力レベルを調整できません。音声出力レベルを調節する前に、ヘッドホンを取りはずしてください。

テストトーンで調節する

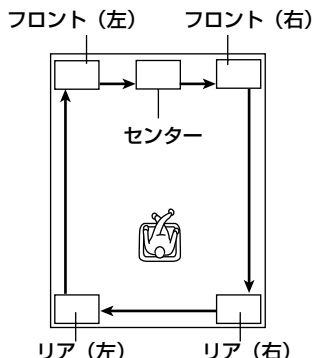
付属のリモコンを使って、各スピーカーの音量レベルを調節します。

ご注意

- 調節は必ず視聴位置で行ってください。
- システム全体の音量が低いとテストトーンが聞こえないことがあります。あらかじめシステム全体の音量を適量に上げておいてください。

1 ⏻/Iキーを押し、電源を入れる。

2 TESTキーを押す。

テストトーンは、右上の図のようにフロント(左)スピーカー→センタースピーカー→フロント(右)スピーカー→ リア(右)スピーカー→リア(左)スピーカー...の順で巡回し、それぞれ約2.5秒間ずつ聴こえます。

- テストトーン出力中は、全てのインプットインジケーターが点滅します。

3 調整したいスピーカーからテストトーンが出ている間にVOLUME+/−キーを押して、フロントスピーカーの音量レベルと同じになるように調節する。

調節中は、テストトーンの巡回が一時停止します。+キーまたは−キーを離してしばらくすると、再び巡回します。

4 調節が終わったら、TESTキーを押す。

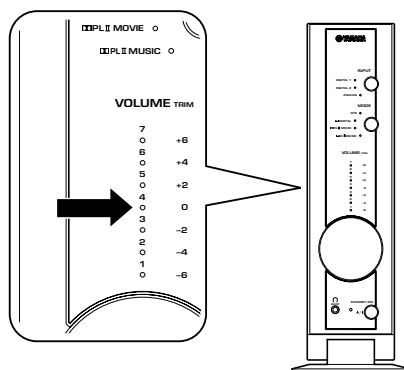
テストトーンが止まります。

- 調節中は、選択しているスピーカーの音量レベルが、アンプユニット上のVOLUMEインジケーターの点灯によって表示されます。また、薄暗く点灯するインジケーターは、レベルの初期設定値を表します。

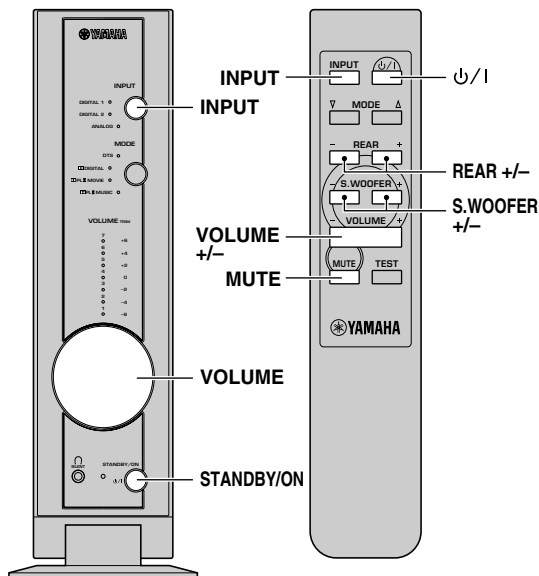
ヒント

- ソースの再生音を聴くときは、アンプユニットのVOLUMEツマミかリモコンのVOLUME+/−キーを使って、システム全体の音量を調節してください。

ご注意

- テストトーン出力中にリモコンのINPUTキーを押すと、全チャンネルの音量レベルが初期設定値に戻ります。
- フロント(右)、(左)スピーカーの音量レベルは、VOLUMEインジケーターの下図が示す位置より上には設定できません。

音声を再生する

基本操作

アンプユニットに接続したオーディオ機器やビデオ機器のソフトを再生します。

1 STANDBY/ONキーを押し、電源を入れる。
アンプユニットのSTANDBY/ONインジケーターが点灯します。

2 アンプユニットに接続した機器の電源を入れる。

3 INPUTキーを押して、入力ソース（DIGITAL1、DIGITAL2、ANALOG）を選ぶ。
選んだ入力ソースのインジケーターがアンプユニット上で点灯します。

4 機器の再生を始める。
再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

5 リモコンのVOLUME＋/−キーを押して音量（ボリューム）を調節する。
音量レベルはアンプユニットのVOLUMEインジケーターの点灯で表示されます。
コントロール範囲：0[消灯](最小) 〜7 (最大)

ヒント
- アンプユニットのVOLUMEツマミを左右に回しても音量(ボリューム)を調節できます。

ご注意
- 本システムはサンプリング周波数48kHz以下のデジタル信号(リニアPCM、ドルビーデジタル、DTS)を再生できます。

■ サブウーファーの音量を調節する

再生中に、S.WOOFER＋/−キーを押す。
＋キーを押すと音量が大きくなり−キーを押すと音量が小さくなります。
- 調節中は、音量レベルが、アンプユニット上のVOLUMEインジケーターの点灯によって表示されます。また、薄暗く点灯するインジケーターは、レベルの初期設定値を表します。

ご注意
- ヘッドホン使用時には調節できません。（+/−キーを押しても無効です。）

■ 前後の音量バランスを調節する

再生中にREAR＋/−を押す。＋キーを押すとリアスピーカーの音量が大きくなり、−キーを押すと音量が小さくなります。
- 調節中は、音量レベルが、アンプユニット上のVOLUMEインジケーターの点灯によって表示されます。また、薄暗く点灯するインジケーターは、レベルの初期設定値を表します。

ご注意
- ヘッドホン使用時には調節できません。（+/−キーを押しても無効です。）

■ 一時的に音声を消す（消音する）

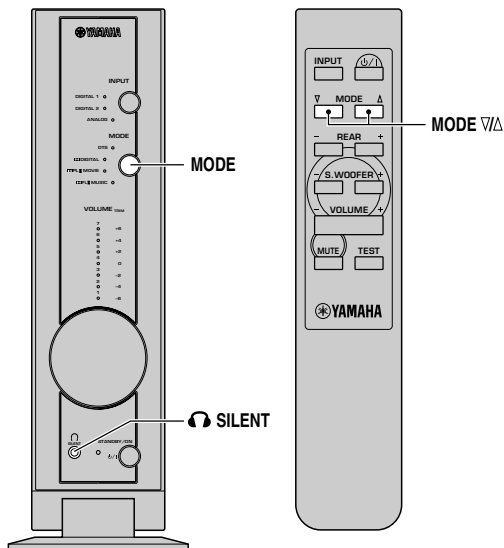
MUTEキーを押します。
前の音量(ボリューム)に戻すには、もう1度MUTEキーを押します。
- アンプユニットをスタンバイ状態にすると、消音が解除されます。

ヒント
- VOLUME＋/−キー、INPUTキーやMODEキーなどを押しても消音は解除できます。
- 消音時には、VOLUMEインジケーターが点滅します。

■ アンプユニットの使用を終了するときは

STANDBY/ON(⏻/I)キーを押してアンプユニットをスタンバイ状態にしてください。

サラウンドモードを選択する

本システムには、映画館のような音響を楽しむことができるサラウンドモードが搭載されています。4種類のサラウンドモードの中から、再生するソースに最適なプログラムを選び、臨場感や迫力のあるサウンドをお楽しみいただけます。

1 ソースを再生する。

ソースの再生方法は、12ページの「音声を再生する」をご覧ください。

2 MODEキーを繰り返し押して、お好みのモードを選ぶ。

選択されたサラウンドモードのインジケーターがアンプユニット上に点灯します。

- インジケーターが何も点灯しない場合は、サラウンドモードが選択されていません。
- ソースによっては選択できないサラウンドモードもあります。選択できるサラウンドモードはソースにより異なります。詳しくは下記の表をご覧ください。

ヒント
- サラウンドモードが選択されていないと、2チャンネルステレオモードになり、センタースピーカーやリアスピーカーからは音が出ません。
- 2チャンネルステレオモード時に、DTSやドルビーデジタルなどの信号を入力すると、ダウンミックスされてフロントスピーカーからのみ音が出ます。

■ サラウンドモードの特長

モード	特長
DTS	DTSサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、サラウンドサウンドを忠実に再現します。入力モードがデジタル入力光1または2に設定されており、DTS信号を入力する場合に選択することができます。
DD DIGITAL	ドルビーデジタルのオリジナル定位を乱すことなく、サラウンドサウンドを忠実に再現します。入力モードがデジタル入力光1または2に設定されており、ドルビーデジタル信号を入力する場合に選択することができます。
DD PL II MOVIE	2チャンネルのステレオソースが5.1チャンネルサラウンド音声で楽しめます。映画やテレビドラマなどに最適なモードです。
DD PL II MUSIC	2チャンネルのステレオソースが5.1チャンネルサラウンド音声で楽しめます。音楽を再生するのに最適なモードです。

ヒント
- 本システムをスタンバイ状態にすると、そのとき選択されていた入力モードとサラウンドモードは記憶されます。次に電源を入れると、自動的に前回の入力モードとサラウンドモードが選択されます。
- 入力モードを切り替えると、その入力モードで最後に設定したサラウンドモードが自動的に選択されます。
- リスニングルームの音響特性は、サラウンドモードに影響を与えます。サラウンドモードによって作り出される効果を最大限に引き出すために、できるだけ音が反響しない部屋でお使いになることをおすすめいたします。
- DTSモードやDDDIGITALモードが選択されていないときにDTSまたはドルビーデジタル信号が入力された場合、それぞれのインジケーターが薄暗く点灯します。

ご注意
- モノラルソースをDDPL II MOVIEで再生中は、センタースピーカーからのみ音が出ます。フロントやリアスピーカーからは音はほとんど出ません。
- 2チャンネルのDTS信号を再生する場合には、DD PL II MOVIE/DDPL II MUSICモードを選択できません。

■ サイレントシアター

サイレントシアターモードで映画館さながらの拡がり感(開放感)を持った音響を楽しむことができます。スピーカーでサラウンド音声を再生中に、ヘッドフォンを SILENT端子に接続してご利用ください。(サラウンドモードがオフの場合は、通常のステレオ再生になります。)

操作する

故障かな？と思ったら

使用中に本システムが正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に作動しない場合は、アンプユニットの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

■ 全般

症状	原因	解決方法	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまうか、またはスタンバイ状態に戻ってしまう。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。	10
	アンプユニットが落雷や過度の静電気など、外部からの強い電気ショックを受けた。	アンプユニットをスタンバイ状態にし、電源コードを抜いて、約30秒経ってから差し込み直して、電源を入れてください。	−
音が出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。	8〜9
	再生するソースの選択が適切でない。	INPUTキーで正しく選択してください。	12
	スピーカーの接続が不完全。	スピーカーの接続を確認してください。	9
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。	12
	消音されている。	リモコンのMUTE（消音）キーまたはVOLUME＋/−キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	12
サラウンドスピーカーから音がでない。	サラウンドレベルの設定が最小になっている。	リモコンのREAR＋キーを押して音量を上げてください。	−
	サラウンドモードがオフになっている。	リモコンのMODEキーを使用して適切なサラウンドモードを選択してください。	13
DTSまたはDDDIGITALモード選択時にセンタースピーカーから音が出ない。	ドルビーデジタルまたはDTSソースにセンターチャンネル信号が含まれていない。		−
サブウーファーから音が出ない。	サブウーファーの音量レベルが最小になっている。	S.WOOFER＋キーを押して、音量をあげてください。	12
ハム音が出る。	アナログ入力端子の接続が不完全。	アナログ入力端子の接続を確認してください。	8

症状	原因	解決方法	参照ページ
アンプユニットが正常に作動しない。	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によってフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
デジタル機器や高周波機器から雑音が出る。	アンプユニットがデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。	アンプユニットをそれらの機器から離して設置してください。	–
DTS、またはDDDIGITALモードインジケーターが薄暗く点灯しているのに、センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーから音がでない。	インジケーターが薄暗く点灯しているときは、入力ソースがDTS、またはドルビーデジタル信号であることを示しています。この場合、入力信号は2チャンネルにダウンミックスされてフロントスピーカーのみから再生されます。	MODEキーを使用して適切なサラウンドモードを選択してください。インジケーターが明るい点灯に変わり、サラウンドモード再生により、センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーから音がでます。	13
ドルビーデジタル信号のソースを入力し、DDDIGITALモードを選択しているのに、センタースピーカーとリアサラウンドスピーカーから音がでない。	ドルビーデジタル信号(2チャンネル)のソースを入力している。	入力ソースが5.1チャンネルに対応している場合は、再生機側で5.1チャンネルを選択してください。(入力ソースが5.1チャンネルに対応していない場合は、DDPL II MOVIEかMUSICモードでサラウンド音声をお楽しみいただけます。)	13
ドルビーデジタルまたはDTSの再生ができない。(本機のDTSまたはDDDIGITALモードインジケーターが点灯しない。	接続したDVDプレーヤーなどが下記の設定にされてない。 ·「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」 ·「出力:デジタル」かつ「信号の種類:ドルビーデジタルまたはDTS」	お使いのDVDプレーヤーなどの取扱説明書をご覧になり、正しく設定してください。	–
音が歪む。	入力信号のレベルが高すぎる。	接続機器側の出力レベルを下げてください。	–
ノイズが気になる。	入力信号のレベルが低すぎる。	接続機器側の出力レベルを上げてください。	–
	接続が不良または不完全。	接続をやり直してください。	8〜9

■ リモコン

症状	原因	解決方法	参照ページ
リモコンで操作できない。	リモコン操作範囲から外れている。	アンプユニットのリモコン受光窓から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	4
	アンプユニットのリモコン受光窓に直射日光や照明(インバーター蛍光灯など)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池を全て交換してください。	2

用語解説

DTS（Digital Theater Systems）
多くの映画館で採用されている最大5.1チャンネルのサラウンドシステムです。チャンネル間のセパレーションも良く情報量も多いので、リアルな音響効果が得られます。

LFE(ローフリケンシーエフェクト)0.1チャンネル
音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

エンコード／デコード
信号や情報を加工、圧縮、デジタル化することをエンコードといいます。エンコードすることで、非常に多くの信号や情報量を一枚のCDやDVDなどに収録することができます。
エンコードされた信号はそのままでは音として聞くことができません。これをもとの信号に戻すことをデコードといい、音として聞くことができます。

音場
音は発生源から直接人間の耳に届くだけでなく、壁や天井に反射してやや遅れて到達したり（初期反射音）、複雑に反射を繰り返しながら消えていったりします（後部残響音）。こうしたさまざまな音を聴くことで、人間はその場所の広さや形状を知覚することができます。このような建物などが持つ固有の音響空間を音場と呼びます。

サイレントシアター
ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンド
映画館や劇場では、観客席を取り囲む多くのスピーカーによって、シーンに合わせて前後左右に移動する効果音、体全体を包み込むような立体サウンドが楽しめます。こうした臨場感を実現するのがドルビープロロジックでデコードするドルビーサラウンド入力です。本来、ドルビーサラウンド方式は、左右フロント（2チャンネル）＋センター（1チャンネル）＋リア（1チャンネル）の合計4チャンネル構成ですが、家庭向けの放送メディアやビデオでも楽しめるよう、ステレオ（2チャンネル）との互換性が保たれ、ステレオ再生が可能なご家庭のAVシステムで手軽に楽しめることが大きな特長となっています。

ドルビーデジタル
ドルビー社の開発したデジタル音声の圧縮方式です。ステレオ（2チャンネル）はもちろん、最大5.1チャンネルの独立したサラウンド音声にも対応しており、大量の音声データを効率よくディスクに収めることができます。

ドルビープロロジックII
2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMOVIEモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードが用意されています。従来の2チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

主な仕様

アンプユニット

定格出力

フロントノセンター／リア：6W(1kHz,4Ω、10%THD)
サブウーファー：18W(100Hz,4Ω、10%THD)

入力感度 200mV

ヘッドホン出力/インピーダンス .... 450mV/30Ω(1kHz,200mV)

再生周波数 .... 40Hz－20kHz

寸法(幅)×(高さ)×(奥行き) .... 96×281×208mm

質量 1.6kg

消費電力 40W

待機電力 約1W

フロント／センター／リアスピーカー

型名 .... フルレンジ、密閉型

型式 .... 5cmスプールコーン、防磁型

インピーダンス 4Ω

寸法(幅)×(高さ)×(奥行き) .... 70mm×95mm×118mm

質量 0.4kg

サブウーファー

型名 .... ヤマハ･アクティブサーボ･テクノロジー方式

型式 .... 13cmコーン、防磁型

インピーダンス 4Ω

寸法(幅)×(高さ)×(奥行き) .... 220mm×224mm×222mm

質量 3.3kg

＊仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

- 本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されております。従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。
- デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● **保証期間**
お買い上げ日より1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**
◆ **技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
◆ **部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
◆ **出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター
TEL　(0570) 01 − 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL　(053) 460 − 3409

FAX　(053) 460 − 2777
住所　〒430-8650
静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間　10:00〜12:00，13:00〜18:00
(日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道　〒064-8543　札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台　〒984-0015　仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏　〒143-0006　東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜　松　〒435-0016　浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋　〒454-0058　名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪　〒565-0803　吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広　島　〒731-0113　広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四　国　〒760-0029　高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州　〒812-8508　福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

● 電源コード・プラグが異常に熱い。
● コゲくさい臭いがする。
● 電源コードに深いキズか変形がある。
● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
● 電源を入れても正常に作動しない。
● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

Printed in China　V979870-1